

「新専貨」で輝く車扱貨物列車

バラエティに富む貨車と 表情豊かな編成の魅力 Vol.1.1



1.新専貨の概要

昨今、日本における鉄道貨物輸送の主役はコンテナである。荷主はコンテナを用意し、荷物を詰め、最寄の営業所に持ち込むことで列車輸送される。コンテナのなかった時代、荷主は貨車自体を借り、最寄の駅に呼び寄せて荷物を詰め、発送した。これを車扱という。これには車扱用の貨車や、貨車を目的地に振り分けるジャンクションとして大掛かりな操車場が必要だった。また、車扱及び操車場を用いた輸送形態をヤード系輸送と呼ぶ。

1984年、貨物の輸送効率化を推し進めていた国鉄は、非効率的なヤード系輸送を廃止し、コンテナ専用列車及び末端のトラック輸送、あるいは単一品目の専用列車による荷主への直行輸送へと転換を図った。しかし化成品を筆頭に、安全上の問題からコンテナやトラック輸送への代替が進まない輸送品目も依然存在したため、一部の車扱は存続となった。しかし操車場は消滅したため、全国に存在する臨海鉄道のヤードも活用することで、従来のヤード系輸送を代替した。

新専貨は、車扱を維持するために生まれた列車である。全国の拠点を渡り歩き、車扱用の貨車を増解結しながら全国の工場を結んだ。編成は化成品タンク車を始めとして、冷延コイルや鉄板、重油、石炭、セメントなど多岐に渡る専用貨車が連なった。その姿はヤード系輸送の全盛期を髣髴とさせる“デコボコ”な編成であり、ノスタルジックであると共にコンテナ専用列車とは一線を画す存在であった。

新専貨の時代も長くは続かなかった。車扱用の貨車は雑多であり、メンテナンスにコストがかかる上に更新も殆どされず、車齢も高くなりつつあった。21世紀に入ると、需要変動に弱く、速度が遅く、達達性もないなどネガティブな面が目立つようになり、JR貨物は遂に新専貨の廃止を決断した。車扱は数々の障壁を乗り越え、段階的にコンテナ化が進められた。その結果、2008年3月のダイヤ改正をもって新専貨は消滅した。

新専貨は潰えたが、化成品タンク車輸送は大牟田発のみ存続した。新専貨の面影を残す運用として人気を博したが、これも2009年12月をもってタンクコンテナへと転換され、日本における化学薬品タンク車輸送の歴史は幕を閉じた。最後の運用は大牟田-南延岡、タキ5450による液化塩素輸送であった。



この日は次位に無動EH500が付く非常に珍しい編成だった
貨車もタキ45000改造車のタキ46000を筆頭に
一形式一両のタキ7450、九州から転属のタキ29100と粒ぞろいであった
2004年7月22日 北陸本線3565レ Photo:UNLSGTS

2.鉄道模型趣味における新専貨の魅力

●懐の深さ

編成に規則性はあるが完全な正解はないため、毎回違う編成が楽しめる。
長くても短くてもよいから、気分次第で編成を組み替えられる。



DE10重連で様々な化成品タンク車を牽く

Photo:UNI.SGTS



DE10単機で1両の化成品タンク車(タキ29100)を牽く

Photo:UNI.SGTS

●貨車へのマニアックなこだわり

市販品に代替できないほど強い個性を持つもの、一見他形式と同じでも少し違うもの、など。
思入れのある形態を自作するもよし、近似形式で雰囲気を楽しむもよし。



市販品改造ではなかなか難しい!?タキ10450(10453)

Photo:Sutakora



市販品のタキ7750と似ているかも。タキ4200(14291)

Photo:Sutakora

●コンテナと車扱のコンビネーション

新専貨末期はコキが多く、タンク車などの車扱が少ない傾向にあった。
手持ちのコンテナに少しの車扱をアクセントで追加すれば、少しの手間で新専貨風に。



末期は車扱も少ないが、新専貨らしさを残す

Photo:UNI.SGTS



車長は短くとも存在感がある(タキ7750)

Photo:UNI.SGTS

Nゲージ化成品タンク車キットのご用命はT356Xまで

t356x.com

@T356X

3.新専貨の編成例 '01 北陸-甲信越発着編

データ参考:新貨車通信 貨車編成表

●3560/3561レ 新潟夕-笠寺

富山近辺から発着する貨車が多く、扱いは神岡鉱山前、速星、伏木、青海が多い。
硫酸、硝酸及びアンモニアは本列車の常連であり、特に本州で見られる銀タキの殆どは本列車から継走されていた。

日付/編成	列車番号/釜番/積荷	ご家庭の貨車で代用	完全再現を目指すなら
2001年3月13日	3561レ		
EF81 富山	32	製品有	-
タキ7750 電気化学工業	苛性ソーダ	製品有	-
タキ7750 電気化学工業	苛性ソーダ	製品有	-
タキ19000 電気化学工業	セメント	他所有者製品	T356Xキット
タキ1900 電気化学工業	セメント	他所有者製品	T356Xキット
タキ19000 電気化学工業	セメント	他所有者製品	T356Xキット
タキ1900 電気化学工業	セメント	他所有者製品	T356Xキット
タキ5750 三井物産	濃硫酸	タキ7750	T356Xキット
タキ5750 神岡鉱業	濃硫酸	タキ7750	T356Xキット
タキ5750 東京化成	濃硫酸	タキ7750	T356Xキット
タキ18600 日本陸運産業	液化アンモニア	製品有	-
タキ18600 日本陸運産業	液化アンモニア	製品有	-
タキ7500 日産化学工業	濃硝酸 甲種硝酸臨時専用	タキ3000銀	T356Xキット
タキ29100 日産化学工業	濃硝酸	タキ3000銀	T356Xキット
タキ7750 日産化学工業	苛性ソーダ	製品有	-
タキ7750 関西化成輸送	苛性ソーダ	製品有	-
タキ10700 日本石油輸送	希硝酸 乙種硝酸臨時専用	タキ3000銀	T356Xキット
タキ10100 日本陸運産業	二硫化炭素	タキ3000	←改造

●3880/3881レ 酒田-川崎貨物 (EF65牽引区間)

北陸へ向かう化学薬品のほか、渋川、安中、二本木及び新井へ向かう化成系タンク車が連なる。
本列車は、高崎操車場より川崎貨物寄りの運用を新鶴見機関区のEF65が担当する。

日付/編成	列車番号/釜番/積荷	ご家庭の貨車で代用	完全再現を目指すなら
2001年5月10日	3880レ		
EF65 新鶴見	1096	製品有	-
タキ45000 キグナス石油	重油	タキ35000	←改造
ホキ5700 チチブセメント	セメント	製品有	-
タキ18600 日本陸運産業	液化アンモニア	製品有	-
タキ7500 日産化学工業	濃硝酸	タキ3000銀	T356Xキット
タキ22900 日本曹達	青化ソーダ	タキ3000	T356Xキット
タキ4000 伊藤忠商事	濃硫酸	タキ7750	T356Xキット
タキ6250 神岡鉱業	濃硫酸及び発煙硫酸	タキ7750	T356Xキット
タキ300 東邦亜鉛	濃硫酸	タキ7750	T356Xキット
タキ5750 伊藤忠商事	濃硫酸	タキ7750	T356Xキット
タキ45000 日本石油輸送	機械油	タキ35000	←改造
タキ45000 日本石油輸送	機械油	タキ35000	←改造
タキ45000 日本石油輸送	機械油	タキ35000	←改造
トキ25000 JRF	車輪	製品有	-

●3880/3881レ 酒田-川崎貨物 (EF64牽引区間)

高崎操車場-新潟夕間はEF64牽引となる。
同じ3880/3881でも日や走行区間によっては先に挙げたEF65牽引編成から顔ぶれがガラリと変わる。
車扱編成を従え、EF64重連で上越国境を越えるさまは新専貨屈指の名場面といえよう。

日付/編成	列車番号/釜番/積荷	ご家庭の貨車で代用	完全再現を目指すなら
2001年3月31日	3881レ		
EF64 高崎	1035	製品有	-
EF64 高崎	1034	製品有	-
タキ7250 内外輸送	メタノール	タキ35000	←改造
タキ7250 内外輸送	メタノール	タキ35000	←改造
タキ4000 三谷産業	濃硫酸	タキ7750	T356Xキット
タキ3700 電気化学工業	酢酸	タキ3000	←改造
タキ3700 ダイセル	酢酸	タキ3000	←改造
タキ3700 ダイセル	酢酸	タキ3000	←改造
コキ104 JRF	コンテナ	製品有	-
コキ104 JRF	コンテナ	製品有	-
コキ104 JRF	コンテナ	製品有	-
コキ104 JRF	コンテナ	製品有	-
タキ5750 東邦亜鉛	濃硫酸及び発煙硫酸	タキ7750	T356Xキット
タキ5750 東邦亜鉛	濃硫酸	タキ7750	T356Xキット
タキ7750 呉羽化学工業	苛性ソーダ	製品有	-
タキ19500 日本石油輸送	スチレンモノマー	タキ35000	←改造

●4380/4381レ 黒井-二本木

3880/3881から継走される、新井及び二本木向けの短距離輸送である。
長大編成の時もあるが、新井向けが運休となった際は本例のように短編成の場合もある。

日付/編成	列車番号/釜番/積荷	ご家庭の貨車で代用	完全再現を目指すなら
2000年5月29日	4381レ		
EF64 高崎	1016	製品有	-
コキ5500 JRF	コンテナ	製品有	-
コキ5500 JRF	コンテナ	製品有	-
タキ22900 日本曹達	青化ソーダ	タキ3000	T356Xキット
タキ7750 日本曹達	苛性ソーダ	製品有	-
タキ7750 日本曹達	苛性ソーダ	製品有	-

●T356X Nゲージ3Dプリント貨車キットのご紹介

新専貨に必須ともいえる化成系タンク車は、大手メーカーの製品が殆どありません。
T356Xでは、3Dプリンターを用いたアクリル製貨車キットを積極的に開発し、貨車ラインナップの増加を図っております。
化成系タンク車ファン、新専貨ファン、貨物列車ファンの方の力になれるよう鋭意活動中ですので、もし貨車キットにご興味をお持ちでしたら、是非以下URLより商品をご覧ください。

Nゲージ化成系タンク車キットのご利用はT356Xまで

t356x.com

@T356X